

国語科 学習指導案

貝塚市立中央小学校

1. 日 時 令和7年11月27日(木)第5時限 13:40~14:25

2. 場 所 第4学年2組教室

3. 学年・組 第4学年2組(34名)

4. 単元名

【君は名探偵!?謎と伏線を紹介するための、「謎の解明ミステリーロープ」を作ろう!】

(「友情のかべ新聞」作 はやみね かおる、補助教材 ブックリスト参照)

5. 単元の目標

◎登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像すること。

(思C(1)エ)

・登場人物の行動や気持ちについて、叙述を基に捉えること(思C(1)イ)

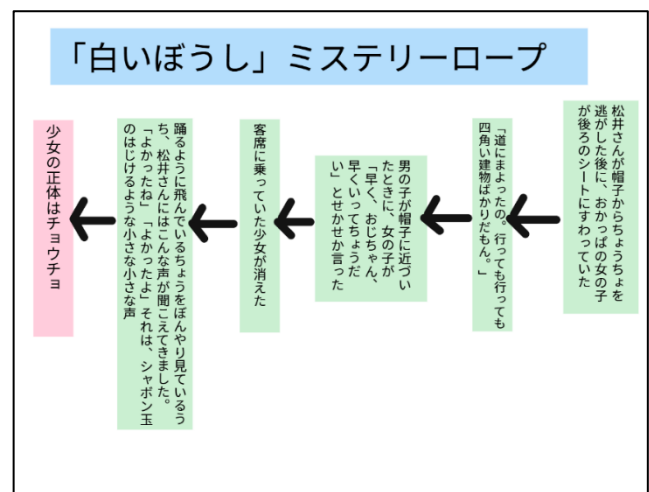
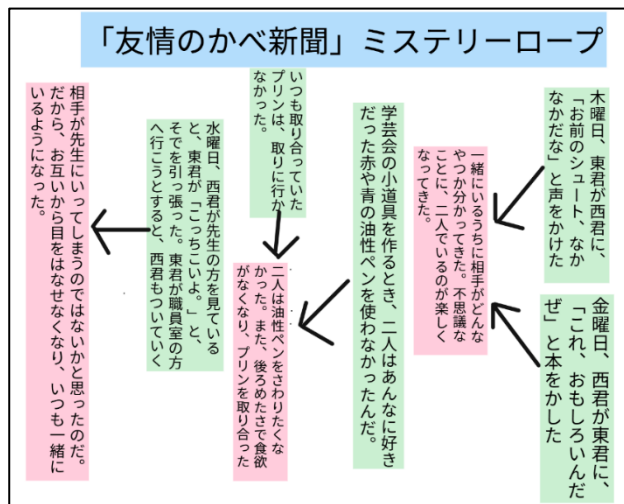
【言語活動】

謎の解明の叙述と伏線となる叙述を結び付けて、友達に紹介するためのミステリーロープを作る

6. 単元で取り上げる言語活動

単元を貫く言語活動として【君は名探偵!?謎の伏線を友達に紹介するための、「謎の解明ミステリーロープ」を作ろう!】を設定した。この言語活動では、特に「C 読むこと」(1)エ(精査・解釈)「登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像すること。」を指導するために、結末が書かれている部分とそこにつながる伏線をミステリーロープにまとめ、場面とのつながりを視覚的にわかるようにまとめていく。

謎の解明ミステリーロープのイメージ



7. 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読すること。	・登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像している。 ・登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えている。	・並行読書教材を自ら進んで読もうとしている。 ・教科書教材で学習したことを生かして並行読書材に取り組もうとしている。 ・友達のミステリーロープを見て、自分との共通点や相違点を見つけようとしている。

8. 指導にあたって

(1) 児童観

(省略 当日資料には掲載しています)

(2) 教材観

本単元で扱う「友情のかべ新聞」は、いつも対立していた「東君」と「西君」が、先生に指示されたかべ新聞作りを終えて描かれる二人の関係性の変化や行動、しぐさの謎を、地の文で「ぼく」が推理していくミステリーとなっている。

「二人は、顔を見合わせてから、うつむく」や「二人は、あんなに好きだった赤や青の油性ペンを使わなかったんだ。」など、描かれた時点では理由がわからなかった叙述が布石や伏線となり、物語の後半の「ぼく」の推理とつながっていく。

本教材を通して、物語の伏線や布石を見つけ、それらを結末などと結び付けて意味を見出したり、新たな結び付きを発見したりすることの面白さを実感してほしい。

また、本単元では、関連図書として児童が選んで読む資料(10 ブックリスト参照)を活用する。図書の選定にあたっては、ミステリーを中心にし、単元を貫く言語活動である「謎の解明ミステリーロープ」に、謎の真相とそれにつながる叙述の伏線をまとめられるようにした。

(3) 指導観

本単元は、教科書教材「友情のかべ新聞」で学んだことを並行読書材でも活用していく単元構成とする。「物語の内容の大体を捉える」→「結末の伏線となる叙述を見つける」→「結末と伏線について友達と話し合い、ミステリーロープを完成させる」を単元の流れとして取り組んでいく。

また、教科書教材で学習したことをすぐに活用して定着させるために、「教科書教材で物語の大体を捉える」→「並行読書材で物語の大体を捉える」→「教科書教材で、結末の伏線となる叙述を見つける」→「並行読書材で、結末の伏線となる叙述を見つける」といったように、教科書教材と並行読書材を交互に学習していく。

9.ブックリスト

(省略) 当日資料には記載

10. 指導と評価の計画(全7時間)

	主な学習内容		評価規準・評価方法
1	㊦単元のゴールを理解し、単元の流れをイメージする ・並行読書材の結末とそれを導くヒントとなる叙述を見付けて結び付けることがゴールとなることを伝え、その力をつけるために教科書教材「友情の壁新聞」を学習していくことを意識させる。 ・ゴールとなる「ミステリーロープ」を提示し、活動のイメージをもたせる。 ・モデル動画を見せ、学習活動のイメージをもたせておく。	並行読書 ①伏線を見付けた本Ⅱ青	【主】・並行読書教材を自ら進んで読もうとしている。
2	㊦結末や伏線を見つけるために、「友情のかべ新聞」について物語の展開に沿って内容をまとめる。 ・まとめながら自分が見付けた伏線となるところや物語の結末を書きしておく。		【知】文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読すること

3	④結末や伏線を見つけるために、「自分で選んだ本」について物語の展開に沿って内容をまとめる。 ・まとめながら自分で伏線となることや物語の結末を書いておく。 →本の叙述に付箋を貼っておく。	②伏線を教えてほしい本 赤 ③犯人や結末だけは読み取れた本 黄 ④自分が紹介する本 黒 ※色はマトリックス表のシールの色	【知】文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読している。
4	④ミステリーロープを書くために、「友情のかべ新聞」の結末や伏線について話し合う。 ・全文シートの掲示を用意し、自分が伏線と思ったところとつながっているところに付箋を貼る。 →子供によって何種類か色を用意する。(その子が選んだ伏線と結末を同じ色にしてつながりをわかりやすくするために) ・付箋を貼ったところを交流する。 →どことどこがつながっていると思ったのか叙述をもとに理由を説明し合う。 ・ミステリーロープにまとめていく。 →結末は赤色。それにつながる伏線は青色の紙にまとめてつなげていく。 残り10分くらいからまとめられる自信がついた子からまとめるようにする		【思】登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。
5	④友達の作った「友情のかべ新聞」のミステリーロープを交流して、自分と同じところや違うところを見つけよう!		【主】友達のミステリーロープを見て、自分との共通点や相違点を見つけている。
6	④ミステリーロープを書くために、「自分が選んだ本」の結末や伏線について話し合おう! ・並行読書マトリックス表をもとに、誰と話し合うか 確かな理由をもって相手を選ぶ。 →○自分が選んだ本の謎の解明を相手に納得してもらうため ○伏線を見付けたいから伏線を見付けている人に話してもらいたい ○見付けた伏線が自分と同じ理由なのか知りたい。など ・実際の本に貼った付箋のページを開きながら友達に伏線を説明していく。 →ページをめくってつながりをはっきりさせながら説明していく。 ・ミステリーロープにまとめていく。 →結末は赤色。それにつながる伏線は青色の紙にまとめてつなげていく。 ・残り10分くらいからまとめられる自信がついた子からまとめるようにする		【思】登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像すること。
7	④友達の作ったミステリーロープを交流して、自分と同じところや違うところを見つけよう! ・同じ本でミステリーロープを作った友達と交流する		【主】友達のミステリーロープを見て、自分との共通点や相違点を見つけている。

11. 本時の展開(6/7 時間目)

(1) 本時の目標

ミステリーロープを書くために、「自分が選んだ本」の結末や伏線がどう結びついているのかを話し合おう!(読エ)

(2) 本時の評価規準

登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。

(思 C(1)エ)

(3) 困難度査定とその対応策

- ・交流する前と後で、見付けた伏線の数が増えなかったり、自分が見付けた伏線がどの結末と結びつくのか説明することができなかったりするなど、交流の前後での変化が見られない。

(自分の考えを発表して終わりにになっている)

→動画の内容に具体的な交流の仕方をしめす。相手の考えに対して自分の考えとの相違点や類似点などを明確にしたり、相手の考えに対して聞いた側が本の叙述を指さし、結び付けたりする。

(4) 展開

時	主な学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法
導入 6分	1, めあての確認		
	ミステリーロープを書くために、「自分が選んだ本」の結末や伏線のつながりについて話し合おう!		
	「友情のかべ新聞」で作ったミステリーロープを確認する。	・何のために本時の授業を行うのか意識する。 ・教科書教材での学習と本時を繋げて考える。	
	2, 動画で交流の仕方を確認する。	・動画を止めながら、大切な部分は確認する。 ・子どもの様子やこれまでの取り組みに合わせて見せる動画を精選していく。	
展開 34分	3, 交流する。 ・並行読書マトリックスを見て、自分が「伝えたい」「聴きたい」相手を選ぶ。	交流の留意点 ・付箋を貼ったページをめくって、叙述を結びつけながら話す。 ・読み取れない伏線(なぜ書かれているのかわからない叙述)を相手に伝え、どんな効果があるのか(どことつながっているのか)相談する。など	【思判表】 ・登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。 【主体的な態度】 友達と話し、悩みに繋がる情報を見つけようとしている。
まとめ 5分	5, 本時の学習のふりかえりを行う。	・友達と交流をして、新しく見付けた伏線があったか、自分の伏線がどことつながっているのか新しい発見があったのか等を書く。	

(4) 本時における具体的な子どもの状況(※本時の評価規準に関わる場面において)

十分満足できる(A)	おおむね満足できる状況(B)	努力を要する状況(C)への支援
「おおむね満足できる状況(B)」に加え、友だちの意見を聞いて、自分の考えを深めることができている。	多岐にわたって伏線や結末を結びつけて読むことができている。	3 人目の聞き手として教師が仲介役となって、根拠を聞き出し、次の交流において助言をする。